

日本の音楽界を作った10人 筆頭は山田耕筰



加藤良一 令和4年(2022)10月27日

「日本の音楽界を作った10人」という特集が〔音楽現代〕(2022年2月号)に組まれていました。音楽批評家、作曲家、音楽学者、指揮者など10人の選者がそれぞれの立場から、日本の音楽界に影響を与えた10人を選び出しており興味深い特集です。

(敬称略)	1	2	3	4	5
石塚潤一	清瀬保二	山田耕筰	諸井三郎	橋本國彦	松平頼則
戸ノ下達也	滝廉太郎	山田耕筰	信時 潔	中山晋平	古賀政男
中村滋延	武満 徹	山田耕筰	岩城宏之	小澤征爾	松平頼則
西原 稔	武満 徹	山田耕筰	三浦 環	信時 潔	藤原義江
福田 滋	フェントン	ダクロン	エッケルト	ルルー	工藤貞次
保延裕史	清水 脩	高田三郎	柴田南雄	石井 歡	中田喜直
真嶋雄大	シーボルト	山葉寅楠	河合小市	瓜生繁子	中村 専
宮崎 滋	伊沢修二	滝廉太郎	山田耕筰	中山晋平	池内友次郎
宮沢昭男	伊福部昭	芥川也寸志	黛 敏郎	松村禎三	武満 徹
茂木一衛	山田耕筰	鈴木鎮一	高田三郎	吉田秀和	服部幸三

(敬称略)	6	7	8	9	10
石塚潤一	池内友次郎	伊福部昭	柴田南雄	八代秋雄	三善 晃
戸ノ下達也	古関裕而	服部良一	新交響楽団	中央交響楽団	藤山一郎
中村滋延	松平頼暁	吉田秀和	柴田南雄	黛 敏郎	秋山邦晴
西原 稔	橋本國彦	近衛秀麿	諸井三郎	湯浅譲二	三善 晃
福田 滋	古矢弘政	永井建子	大沼 哲	吉本光蔵	山田耕筰
保延裕史	團伊玖磨	大中 恩	武満 徹	林 光	三善 晃
真嶋雄大	幸田 延	神戸詢子	久野 久	澤田柳吉	小倉末子
宮崎 滋	齋藤秀雄	小澤征爾	藤原義江	中山悌一	安川加寿子
宮沢昭男	三善 晃	原嘉壽子	宮城道雄	三木 稔	山根銀二
茂木一衛	皆川達夫	海老澤敏	小澤征爾	内田光子	小松英典

以下に各選者の選出理由などをまとめました。

- 音楽批評の**石塚潤一**氏は、**清瀬保二**を第一番に挙げています。

日本人にとって西洋音楽とは何か、その作曲とは何か、という問題を考えるとき、決まって思い浮かぶのは**清瀬保二**という作曲家のことだ。**武満 徹**の師として名が挙がりもする（中略）。**山田耕筰**による指導は、その音楽観を根本的に揺さぶるほどのカルチャアショックになったに違いない。（中略）清瀬の創作には、自らの感覚一つで西洋音楽というものと対峙しなくてはならなかった者の苦難と、それゆえの個性と輝きが在る。

- 日本の音楽史研究家**戸ノ下達也**氏は、個人だけでなく、**新交響楽団**と**中央交響楽団**を挙げている点が他の選者とは異なっています。明治時代初期に創設された軍楽隊にはじまる音楽活動による底支えが、今日にいたる音楽文化の重要な系譜を担っていると述べています。

音楽文化の深耕は、創作・演奏と共に、同報性・即時性・広域性・反復性を兼ね備えたメディアの存在は不可欠だ。創作や演奏という取組みがメディアと協業して今日に至ることも忘れてはならない。

- **中村滋延**氏は、作曲家の立場から、つぎのように述べています。

現代音楽の前衛的・実験的作品をつくり、そのための理論や美学について著述のある人たちを挙げたくなる。このことは評論家・研究者などにおいても同様であり、演奏者においても前衛的・実験的作品の上演に積極的な人を高く評価してしまう。

として、まず**山田耕筰**を挙げ、

近年、NAXOSから出ているCDの山田の管弦楽作品などを耳にすると『日本一の音楽家』として扱われていた時期があったことにまったく異存はない。

としています。

- 音楽学者**西原 稔**氏も中村氏と同じく**山田耕筰**を一番に挙げています。

日本の洋楽黎明期において山田の担った役割の大きさは類まれなるものがあつた。（中略）山田はさまざまなジャンルにわたって大きな足跡を残した。（中略）歌曲の分野では日本語の抑揚を研究し、日本のリートを確立したと言っても過言ではない。**北原白秋**の詩に作曲した数々の名作歌曲はまさに日本の歌曲創作の基盤となつた。



山田耕筰

- 指揮者で音楽評論の**福田 滋**氏は、西洋音楽黎明期に範囲を絞って10人を挙げており、あまり耳にしない名前が多いが、最後に**山田耕筰**を挙げています。

明治2年(1869)に薩摩藩の軍楽伝習生約30名が、横浜本牧妙香寺でイギリス陸軍軍楽隊**ジョン・ウィリアム・フェントン**から指導を受けたことが実質の日本西洋音楽事始めといえよう。

続いて、フェントンに1年遅れてフランスから赴任してきた**ギュスターヴ・シャルル・ダクロン**が陸軍軍楽隊の指導にあたり、明治10年(1877)にはフェントンの後任として海軍軍楽隊の指導にあたったのがドイツ人音楽教師**フランツ・エッケルト**でした。

軍楽隊の果たした役割は大きく、指揮者・演奏家・作編曲家・楽器メンテナンスに至るまで専門的教育機関として機能していた。

- 2022年6月17日に逝去(享年67)された、音楽評論家・合唱指揮者・エッセイストの**保延裕史**氏は、立教大学で合唱に親しみ、卒業後日本合唱協会でテノールとして活躍し、退団後は、全日本合唱連盟のコンクール審査員ほか多くの審査に関わった人です。

滝 廉太郎や**山田耕筰**、**橋本國彦**、**信時 潔**といった概ね第二次大戦前に活躍し揺籃期を築いた先人の仕事を受け継ぎ、本格的に日本独自の発展を遂げた合唱音楽に貢献した作曲家たち

として10人を生年順に選んでいます。**清水 脩**、**高田三郎**、**石井 勲**、**中田喜直**、**團 伊玖磨**、**大 中 恩**、**武満 徹**、**林 光**、**三善 晃**と、今でもよく演奏される合唱曲の作曲家が並んでいます。

- 音楽評論の**真嶋雄大**氏は、テーマが広範にすぎるとして、黎明期のピアノ界に焦点を絞って10人を選んでいます。

そもそも日本に最初にピアノを齎した**フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト**、日本で最初にオルガンを制作した**山葉寅楠**、ついで山葉の弟子でピアノの国産化に際し、アクションと響板の開発を行った**河合小市**を挙げている。山葉は日本楽器製造(株)を設立、現在のヤマハ(株)の礎を築き、河合は河合楽器研究所を設立、現在の河合楽器製作所へと発展しています。

- 作曲家**宮崎 滋**氏は、**伊沢修二**を真っ先に挙げています。

明治以来、日本の洋楽楽壇の興隆に決定的な貢献を果たした先人ということで、もろもろ思案をめぐらせたが、筆者の場合どうしても作曲家に目がいてしまうのはやむを得なかった。ひとまずそこに焦点を定めて選考してみた。とはいえ、洋楽導入の端緒を切った人物として実質的な嚆矢者**伊沢修二**の存在を忘れる訳にいかず

その上で、作曲家として、まず**滝 廉太郎**、**山田耕筰**、**中山晋平**、**池内友次郎**を推挙しています。

- 音楽評論の**宮沢昭男**氏は、ウィーン楽友協会資料館の「ブラームスの遺産」に保管されていた印刷譜『日本民謡集』の箏曲「六段の調べ」「みだれ」など5曲の5線譜にブラームスの書き込

みが発見されたことに触れ、これこそ日本の伝統文化に対するブラームスの真摯な接し方を物語っているといます。

ブラームスと同じ眼差しで異国文化に向き合い、芸術性を追求する人々が前面に現れた。大正デモクラシーの文化社会的な功績と私は考える。

との視点から、**伊福部 昭**を筆頭に挙げている。伊福部の『管弦楽法』第1巻を代表格としています。

- 音楽学者の**茂木一衛氏**は、音楽家以外も可という依頼に応じ、演奏家にかぎらず広い範囲から選出し、日本の洋楽黎明期の代表として**山田耕筰**を挙げています。

交響曲やオペラはじめ本格的な芸術音楽作品を発表、指揮者としても活動して日本のクラシック音楽界のパイオニア的存在。もちろん〈からたちの花〉や〈この道〉など童謡での功績も大きい。(中略) 日本の音楽界の発展に功績のあった人々を、何とか10人に絞り列举する作業をしてみると、あらためて今日の音楽界の隆盛が明治以来の人々の努力の賜物であることが実感されてくる。現在、コロナ禍に襲われ、これは戦争での禍などとはまた質の違う深刻な事態だが、そうした先人の苦勞なども思い、この試練をしっかりと乗り越えていきたいものである。

選者10人のなかで7の方が選び出したのは、やはり**山田耕筰**でした。ついで、**武満 徹・三善 晃**が5人、**小澤征爾・柴田南雄**が3人、以下2人が選んだのは**池内友次郎・高田三郎・滝 廉太郎・信時 潔・橋本國彦・黛 敏郎・諸井三郎・吉田秀和**となっています。

「日本の音楽界を作った10人」は、音楽の専門でなければ知り得ない、日本における西洋音楽黎明期の躍動を僅かながらでも見せてもらうことができた特集でした。このテーマは、極めて幅が広く、選者の専門分野や見る角度によって異なるのは承知の上での企画でしょうが、それでも圧倒的に山田耕筰が採り上げられたという結果には、それなりに納得ができるものがあります。



[Back](#)

[音楽・合唱コーナーTOPへ](#)

[Home](#)

[HOME PAGEへ](#)